

## 2月 「Die besten Jahren noch vor sich」 アントニア・シュルト

1.年末に生まれた人だけが感じることもかもしれませんが、私は去年の12月25日に32歳になったきっかけに改めて思ったことです。32歳になったばかりなのに、たったの一週間が経つと、「今年は33歳になる」と言えるようになります。まるで、一瞬で2年加齢したようです。例えば、7月に生まれた人だと、半年ぐらいその年齢で過ごしてから、言えるセリフです。誕生日というのは誰でも「一年一回」、（本当は人生一回だけ）ですから、私の完璧な迷論だと分かっていますが、この感覚は頭から離れません。



## 2月 「Die besten Jahren noch vor sich」 アントニア・シュルト

2.なぜこのくだらない話をするかというと、今回の誕生日に、人生はじめて「もう若くないなー」と思って、少し落ち込んでしまいました。もちろん、60代の人立場からすると、「まだ十分若いですよ。」というかもしれませんが、やはり32歳で道の1/3（以上）はもう歩いてきたというのは事実です。

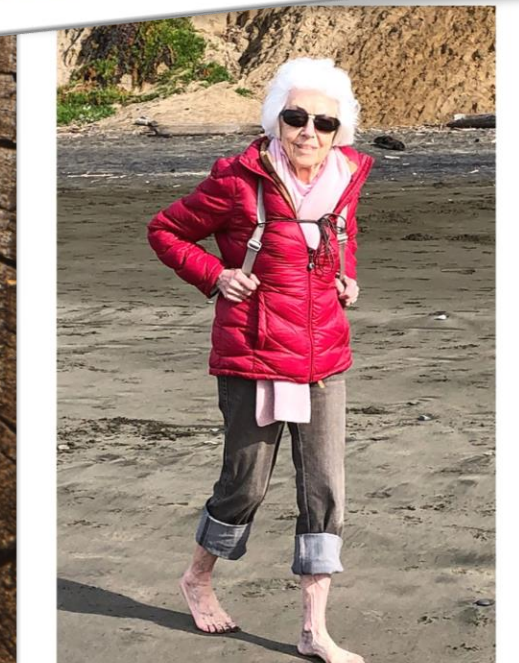
20代の選択が今の人生に影響を及ぼしているにちががなく、いい意味でも、悪い意味でも簡単に換えられない状態にたどり着きました。周りの人のことを考えないといけませんし、親としての責任もありますし、つまり大人だから、勝手な振る舞いはもう許されないということです。

年をとればとるほど、人生を決める選択がどんどん少なくなると同時に、将来に向けた夢や希望の幅も狭くなっていくような気がします。人生の大綱はもう決まっているので、あとは細かいところだけを形成するという作業が残っていて、いつでも当たり前だった「次の一歩」がたどたどしく、視線をどこに向ければいいのか分からなくなるときがあります。

## 2月 「Die besten Jahren noch vor sich」 アントニア・シュルト

3.こういった気持ちを抱えていた私に、今アメリカのカリフォルニア州を訪れているおばあさんからの写真が送られてきました。ハイキング用の洋服を着ており、サングラスをかけたおばあさんの姿が映っていました。添付されたメッセージに「今年の初登山楽しかった!」と書いていました。

92歳のおばあさん、一昨年におじいさんを亡くしたおばあさんが飛行機に乗って、12時間ぐらいの空旅をして、いきいきとカリフォルニアのヒルズを登っていることに感動しました。それから、写真が何枚か届いてきました。庭いじりの時にぼやっと花を見ているおばあさんや、はだしでカリフォルニアのビーチを散歩しているおばあさんなどの写真でした。



## 2月 「Die besten Jahren noch vor sich」 アントニア・シュルト

4.何で感動したかというと、二つの点があります。山か谷を問わず、冒険心と好奇心を高年まで保って、人生を前向きに生きてきたことと、92歳でもおいしい食べ物はおいしい、太陽の光に当たれば暖かい、好きな人と一緒にいれば心が癒させると意識して感動しました。昨日は一日いっぱい山にいて、山歩きをしていたとき思い知りましたが、こういうのが好きというのは偶然ではなく、私はおばさんの血を引いているからなのではないでしょうか。

